

# 子ども向け、絵も描き直す



新たに制作したかるたを紹介する堀越さん（左）と木下会長  
＝金沢市丸の内

兼六園かるたのことも版 まとめて、取り札の裏には句を制作したのは、研究会の 説明が添えられている。メンバー7人。かるたは時 7人は2023年に研究 雨亭よつこそよつこお 会に入会した33期の仲間 茶会に「山崎山紅葉に で、活動で得た知識をもと トラの絵で表現するなど 染まる 御室の塔」など兼 に約5カ月掛けて読み札を 考えた。取り札のイラスト

1994年に会員3人が

子どもたちに兼六園のことを知ってもらおうと、金沢城・兼六園研究会が「令和版兼六園子どもかるた」を完成させた。兼六園の見どころを詠み込み、1990年代の会員が制作したいろはかるた「兼六園かるた」を、子どもにも分かりやすいように32年ぶりにリニューアルした。編集責任者を務めた堀越さん（71）は「楽しみながら兼六園の魅力に触れてほしい」と期待している。

## 兼六園かるた 32年ぶり 刷新

### 金沢城・兼六園研究会 見どころ詠み、札の裏で説明

制作した「兼六園かるた」は、30年以上にわたって親子大会や新入会員かるた会で使用してきたが、経年で傷んで処分され、現在は3セットが残るのみとなっていた。このため、子ども向けの「令和版」としてリニューアルすることにした。

研究会は2018年、兼六園を紹介する子ども向けガイドブックも作成。市内の小中学校に寄贈し、ふるさと学習などに活用されている。かるたには、ガイドブックの記載ページも載せており、かるたと合わせて活用することで理解を深めてもらう。

製作費用は会員から募り、2000セット用意した。今後は図書館や児童館、小学校などへの寄贈も考えており、堀越さんは「金沢に生まれたからには兼六園のことを知ってほしい」、木下一夫会長（78）は「子どもたちに楽しんで使ってもらいたい」と話した。